



「戦雲」自主上映会

10月20日(日)14時～
日本教育会館

「国防」をうたい
棄民亡国へ突き進む人々へ
島々から平和への
切なる祈りをこめて

三上智恵監督最新作

戦いくさふむ雲

軍事要塞化する南西諸島。圧殺されるのは沖縄の声だけではない——
『標的の村』『沖縄スパイ戦史』三上智恵監督、渾身の最新レポート

本当の「国防」とは何か？ 圧殺されるのは沖縄の声だけではない

沖縄本島、与那国島、宮古島、石垣島、奄美大島——この美しい島々で、日米両政府の主導のもと急速な軍事要塞化が進行している。自衛隊ミサイル部隊の配備、弾薬庫の大増設、基地の地下化、そして全島民避難計画……。2022年には、「台湾有事」を想定した大規模な日米共同軍事演習「キーン・ソード23」と安保三文書の内容から、九州から南西諸島を主戦場とし、現地の人々の犠牲を事実上覚悟した防衛計画が露わになった。しかし、その真の恐ろしさを読み解き、報じるメディアはほとんどない。全国の空港・港湾の軍事拠点化・兵站基地化が進められていることをどれほどの日本人が知っているか。本当の「国防」とは何か。圧殺されるのは沖縄の声だけではない。

『標的の村』『沖縄スパイ戦史』三上智恵監督 6年ぶり、渾身の最新作

本作は2015年から8年かけ沖縄・南西諸島をめぐる取材を続けてきた映画作家でジャーナリストの三上智恵による渾身の最新レポートである。タイトルは、山里節子さんが「また戦雲（いくさふむ）が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌う石垣島の抒情詩とうばら一まの歌詞に由る。映画が映し出すのは、迫り来る戦争の脅威だけではない。過酷な歴史と豊かな自然に育まれた人々の暮らしや祭り——それらこそ、まやかしの「抑止力」の名のもとで今まさに蹂躪されようとしているかけがえのない何かであり、私たちの希望と祈りの源にほかならない。

監督：三上智恵 語り：山里節子 プロデューサー：橋本佳子、木下繁貴 撮影：上江洲佑弥 編集：青木孝文

監督補：桃原英 CG：比嘉真人 イラスト：山内若菜 音楽：勝井祐二 製作協力：沖縄記録映画製作を応援する会

製作：DOCUMENTARY JAPAN、東風、三上智恵 配給：東風 2024年/日本/132分/DCP/ドキュメンタリー © 2024『戦雲』製作委員会

主催 フォーラム平和・人権・環境 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館 1F TEL 03-5289-8222